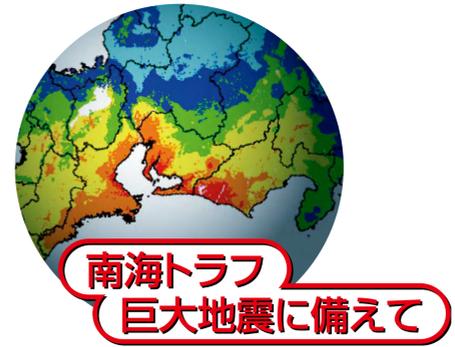


南海トラフ 巨大地震に 備える 展



開催にあたって

2万人を超える犠牲者と財産のすべてを失った多くの被災者、そして、仮設住宅に暮らす人々を含め約32万人ものいまだに避難する人々を出した東日本大震災の発生から2年になろうとしています。発災と同時に中部地方整備局も全力で被災地の救援活動を展開してまいりました。

しかしいま、この大震災の記憶の風化が危惧されています。東北地方と同様の南海トラフ巨大地震の危険性に直面している中部圏は特にこの教訓を生かし防災・減災の取り組みを強化する必要があります。

本催事は南海トラフ巨大地震における最悪のケースの被害想定や中部圏初公開の東日本大震災の被災物、発災から道路啓開（緊急輸送路の確保）に関する一連の活動を、被災物の実物やパネル、映像を通じてご覧いただきます。この大災害の記憶と教訓を市民の方々と共有し、中部圏の防災力の向上にむすびつけたいとの思いで愛知県・三重県・岐阜県・静岡県で展開してまいります。

明日への備えの一助になることを願います。

平成25年 1月
国土交通省 中部地方整備局長
梅山 和成